

温湯種子消毒と微生物農薬による イネばか苗病に対する種子消毒体系

温湯種子消毒を60℃10分間行くと発芽率が低下する酒米や糯米などに朗報です!!

防除効果

温湯種子消毒

60℃ 6分間 + 微生物農薬

タフブロックまたはエコホープDJ

=

温湯種子消毒

60℃ 10分間

発芽率が下がらず、60℃ 10分間の温湯種子消毒と同程度の防除効果

育苗期に発病した ばか苗病

ばか苗病が発病した苗は、健全苗より葉色が淡く、細長く伸びます。

ばか苗病が発病した苗を移植すると、株が枯死し、枯死株から発生した病原菌が健全稲の穂などに感染します。(種子伝染します)

病原菌

ばか苗病によって
枯死した株と病原菌

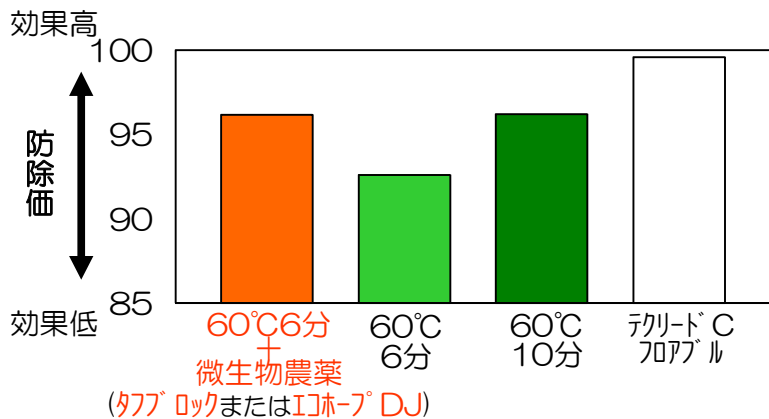
ばか苗病
発病苗

健全苗

【対象：酒米・糯米など】

イネばか苗病の防除方法

温湯種子消毒と微生物農薬による体系種子消毒の防除効果

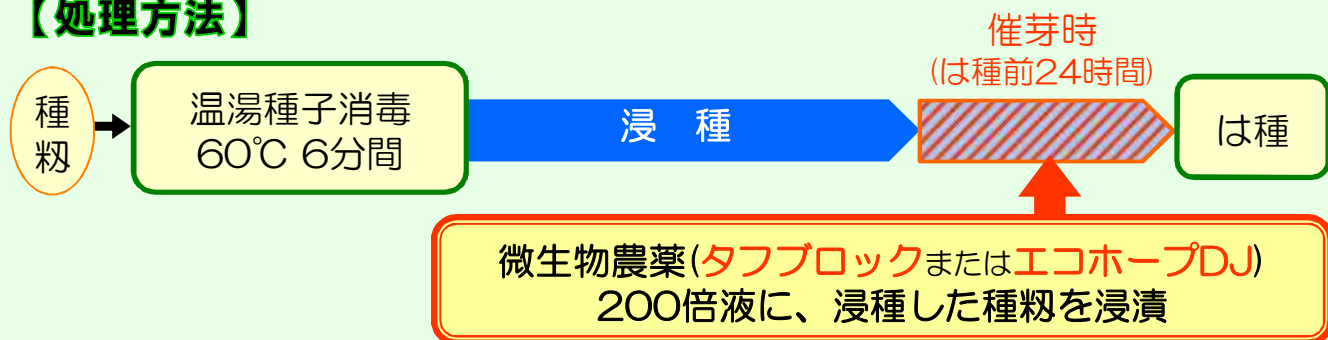


注1) 試験地：鳥取市橋本
(農業試験場)
注2) 品種：‘きぬむすめ’
(穂揃期接種軽度汚染粳)
注3) ばか苗病に対する種子消毒の判定基準

効果の判断	防除価
効果は高い	98以上
効果はある	97~95
効果は認められるがその程度は低い	94~80
効果は低い	79以下

図1 温湯種子消毒(60°C6分間)に微生物農薬を追加した体系と既存手法のばか苗病に対する防除効果の比較

【処理方法】



【特記事項】

- 普及対象は、酒米、糯米等の品種のうち、発芽への影響が懸念されるため温湯種子消毒の時間を60°C 10分間から6分間へ短縮したものとします。
- 本体系種子消毒による防除効果の判定は、穂揃期に病原菌を接種した軽度汚染粳を使用して行いました。
- 本体系種子消毒によってイネ苗の生育に影響がないことは、酒米では‘強力2号’、糯米では‘鈴原糯’のみ確認しており、その他の品種では未確認です。
- 本体系種子消毒は、重度のイネばか苗病保菌種子では実用性が低いと考えられますので、発病ほ場およびその周辺ほ場から採種しないことが望ましいです。
- 本体系種子消毒は、有機栽培においても使用可能な方法です(2016年2月時点)。

本書から転載複製する場合には
必ず鳥取県農業試験場の許可を受けて下さい

(お問い合わせ先)
鳥取県農業試験場 環境研究室
電話 0857-53-0721